

せいしょかしよ てがみだいいち しょう せつ
聖書箇所：コリント人への手紙第一 15 章 35～49 節

◆今日のみことば

「卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、力あるものによみがえらされ、血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだに よみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。」コリント人への手紙第一 15 章 43～44 節

◆メッセージ

よみがえるって、どんな姿を想像しますか？死んだ時のまま？私の兄は、事故のために2歳で召されたのですが、年をとってしまった私のこと、わかるかなあと心配になりますね。神さまは、どんなふうによみがえるのか、教えてください。

まず、死ということについて、ここでは種を蒔くことにたとえています。暗い土の中で終わってしまうのではなく、新しい命が生まれ出されます。死ぬことも同じ。終わりではなく、新しいのちが芽生えるため、よみがえりのからだを受けるためのプロセスです。

よみがえりのからだは、この肉体のからだと違います。私たちの肉体は、土地のちりと同じ内容。そういう意味ではやがて終わってしまうもの。でも、それは私たちの存在が卑しくて価値がないという意味ではありません。私たちは、イエスさまを身代わりにして罪のゆるしを得させてくださるほど神さまに愛されています。尊い存在です。だから、よみがえりのからだは、この肉体のからだでは不十分です。よみがえりのからだは、栄光あふれ、力あふれる、霊のからだです。全能の創り主なる神さまからいただきます。

この栄光のからだをいただくのは、イエスさまが再臨する時です。順番は、既に召された人々が先。でも、イエスさまを信じた人は、もれなくいただけますから、心配なく。やがて私もこの栄光のからだをいただいて、既に召された愛する人々と会うことができます。楽しみですね。

◆お祈り

「神さま。よみがえりのからだを与えてくださる約束を感謝します。そのことを心待ちにして、この地上の日々も、神さまを見上げて歩みます。」

(習志野台キリスト教会牧師 丸山園子)